

第3期第5回生涯学習センター運営協議会 議事要旨

〔日 時〕 2016年11月21日（月） 9：30～11：30

〔場 所〕 生涯学習センター 視聴覚室

〔出席者〕 ※敬称略

委員：岩本 陽児、太田 まゆみ、大野 浩子、島田 忠次、白崎 好邦、辰巳 厚子、
中里 静江、中村 香、前田 美幸、柳沼 恵一
以上 10名

事務局：板橋センター長、鈴木担当課長、小林管理係長、松田事業係長、岩田担当係長、
高木担当係長、中野担当係長、村田担当係長、渡部担当係長、齊藤主事（記録）

〔欠席者〕 陶山 慎治、上村 まり

〔傍聴人〕 2人

〔資 料〕 ・第5回生涯学習センター運営協議会レジュメ

- ・まちだ市民大学HATS 概要（資料1）
- ・2016年度まちだ市民大学HATS事業プログラム開発指針（当日資料）
- ・2016年度まちだ市民大学HATSプログラム委員（当日資料）
- ・『まちだ市民大学HATS終了団体紹介』（当日資料）
- ・ことぶき大学前期募集講座「健康コース」（資料2-1）
- ・ことぶき大学前期募集講座「文学コース」（資料2-2）
- ・プラネタリウムがやってくる！（資料3）
- ・オペラの名曲でめぐる、世界一周コンサート（資料4）
- ・市民企画講座「18歳の選挙権 主権者教育からシチズンシップ教育へ」（資料5）
- ・東京都公民館連絡協議会の報告（資料6）
- ・昭和薬科大学共催市民講座「認知症について」（資料7）
- ・時事問題講座「スーパーフードクッキング」（資料8）
- ・時事問題講座「もっと知りたい！大人の発達障がいのこと」（資料9）
- ・時事問題講座「橋本麻里の、2017年この美術展を見逃すな！」（資料10）
- ・生涯学習推進事業「生涯学習ボランティアバンク1日体験講座」（資料11）
- ・事業評価の最終報告（第4回資料11-2～7、12-1）
- ・第39回大都市の社会教育・研究と交流のつどい（当日資料）
- ・第53回東京都公民館研究大会開催要領

<議題>

（会長から生涯学習センターまつりへの協力のお礼と開会の挨拶）

1. 生涯学習センターの役割と機能について

○市民大学の現状と課題について（資料1）

事務局：市民大学の沿革は1989年町田市民大学構想検討委員会の発足に遡る。1993年4月に「まちだ市民大学推進室」が新設。まちだ市民大学HATS運営協議会の発足とともに、四講座が正式開講する。同年、プログラム会議も発足し、まちだ市民大学修了者団体や修了生が講座運営の推進と支援を担った。別添資料の『まちだ市民大学HATS終了団体紹介』を参照されたい。翌年2月には町田第四小学校内の施設に移転。陶芸スタジオが附属施設となる。この頃に現在の実施講座の原型が出来上がった。

2012年に生涯学習センターとなってからの変更点は運営の主体が生涯学習センターとなっ

たこと、市民大学HATS運営協議会が解散し、HATSを含めた各種事業にかかわる生涯学習センター運営協議会が出来たこと、プログラム委員の選任要項が策定され、更新は4回までとなったことなどである。

第2期の生涯学習センター運営協議会報告より出された課題は、①「地域を育てる」型の学習の在り方の検討②高齢社会と次世代の人材育成方法について③従来の枠組を超えた新しいプログラム作り④運営協議会、プログラム会議、生涯学習センターの意思疎通と役割分担の明確化である。また、この他に事業評価方法や、評価を受けての改革と具体案の提案方法が課題である。

センター長：あわせて、もう一つ講座の内容の中立性の確保についても課題となっている。具体的には法学講座で、憲法に関する講座が議会からの質問を受けたが、憲法問題は政治に結びついているところもあるので講座の政治的中立を堅持することは大変難しい課題である。じっくりと時間をかけて、今年度から来年度にかけて検討していきたい。

(委員からの質問・意見)

●市民大学におけるプログラムの作成と責任体制について

- ・プログラム委員の構成が知りたい。
- ・市民大学についての担当職員はどのようになっているのか。
- ・全体の事業を統括するのは誰でどの組織であるかが明確でない。それぞれの意見が反映されていないのではないか。
- ・講座の内容が非常に高度化している。これだけ多岐にわたる高度な内容の講座を運営し、全体を把握するのは正直難しいのではないか。学識経験者が責任をもつのか、職員が目を通して責任を持つのか、そこが曖昧で、内容が高度になるほど、プログラムが一人歩きしてしまい、それらをどのように統括するのかが課題である。
- ・ことぶき大学や、それぞれの講座に内容のダブリがあり、勿体ないと感じるところもある。それぞれの事業が縦断的に把握される必要がある。
- ・それぞれの事業の責任者がいて一生懸命行っているのに思いが届いていない。人が来ないから、講座がつぶれるといわれ続け、翌年やってもやはりだめだったと言われるだけだ。この場で評価されるときに、プログラムの意図が伝わっていない。お互いの思いが通じてない。講座の公平性についてだが、そもそも市民大学には政治が入ってはいけないのではないか。
- ・どこでどういう組織がプログラムを作成しているのか、フローチャートのような形で誰もが一目みてわかるように明確化すべきではないか。
- ・今までどおりの同じ事業をそのままこなしていれば良いというものではない。一歩先に行くにはどうすればよいかを考えると来ている。

●講座の指針について

- ・プログラムについては、どのような意図で企画されたものか、最初に説明がないとわからない。
- ・講座の指針がないのではないか。具体的にどういう指針で講座を行うかという指針があったほうが良い。

●合意形成について

- ・多様な意見を集約したときに合意形成されるものなので、プログラム委員、運営協議会委員、職員が皆で意見を出し合い、合意形成される場が必要ではないか。一人の人に責任がかかるような仕組みとしては良くない。
- ・どこが合意形成する場かわからない。プログラムありき、事業ありきの評価となっている。運営協議会が合意形成する場ではないか。プログラムの有用性をこの場で評価すれば良いのではないか。プログラム個別の内容は充分良いものなので、細かいことの評価はいらないので、当初のコンセプトにあったプログラムであったかどうかを評価すればよいのではないか。

●その他、全体を通して

- ・この会議の目的がわかりにくい。地方教育行政には、教育委員、社会教育委員、運営審議会委員などがある。地教行政に反映されるように検討しないと勿体ない。この会議では何をどこまで決めて何をどの委員会にあげていくのかをちゃんと考えないと、ここで話し合ったことが生きない。また、法学の政治的中立についてだが、議会で問題になったというのであれば、議会から独立した機関として教育委員会があるので、教育委員を通して意見を言わなくてはならない。教育委員に言うためには審議会としてこういう意見があった、ということをもとめなくてはならない。そういうことをちゃんとやらないと、はっきり言ってどこの地域もお金が無い中で、曖昧でいたらどんどん予算がカットされていく。そうならないようにしていただきたい。
- ・市民大学に関しての議論は別途、早急に場を設ける必要がある。運営協議会で出来ることは限られている。

(事務局からの回答)

- [資料配布]・2016年度まちだ市民大学HATSプログラム委員(プログラム委員の構成について)
・2016年度まちだ市民大学HATS事業プログラム開発指針(市民大学の指針について)
- ・職員の体制としては、事業については事業係長がおり、全体を統括している。
 - ・職員は市民大学だけではなく、ことぶき大学やその他の事業をそれぞれ掛け持ちして担当している。全体の仕事を職員が皆で担当するというのが、生涯学習センターに市民大学が統合された時に職員に求められたことである。
 - ・指針について、色々なレベルの指針があると思うが、市民大学全体についての指針というものがあるので資料を参照されたい。
 - ・変革を加える難しさと、講座の内容が高度化していることを改めて認識している。
 - ・意思決定においては、それぞれの立場からの意見を受けて、どうすれば合意形成が達成されるかが課題である。

センター長：色々な意見をありがとうございます。運営協議会だけで出来ることは限られている。全員というのは難しいが、何らかの形で市民大学あり方について議論する場を設けていきたい。

2. 事業評価

担当割当について(資料NO.に基づく)

2-1 島田委員、2-2 白崎委員、3 前田委員、4 太田委員、5 中里委員、

- ・ことぶき大学健康コース「リンパビクス」で認知症予防(資料2-1)

事務局：ことぶき大学は生涯学習センターで企画運営している。昨年後期と同じ講師による実技の講座で、8月まで全6回開催。定員80名に対して応募者は約4倍。効果指標については92%を達成し、アンケート結果からも受講生の満足度が高いことが分かり、家庭でも行いたいといった声が寄せられた。講座終了後にサークルが立ち上がったことは大きな成果である。ただ、人気が高い講座なので昨年より10名定員を増やして80名としたところ、実技を行うには少し窮屈であった。適正な定員の設定が検討課題である。

- ・ことぶき大学文学コース(資料2-2)

事務局：ホールでの座学講座。毎回一人の作家を取り上げる。今回は「谷崎潤一郎」について。応募者数は第1・第2希望を含めて定員154名を達した。効果指標「作品をわかりやすく学ぶことができた」は89%の満足度だった。一方「作品を読み解くことでこれから生きるヒントを得ることができた」については62%で、晩年も精力的に著作活動を行った谷崎の生き方が、果たしてそのまま自分に置き換えられるかどうかという点で難しい、という点が結果に現れたと分析し、事業の有効性はBとした。講師は演劇をやっていた方で、一方的な話だけではなく、谷崎作品の朗読や芝居風な解説が好評であった。座学の為サークル立ち上げには至らなかった。ことぶき大学は全体を通して希望者数が非常に多いので、来年度の前期もホールでの講座を検

討しているが、後期講座では少し人数を絞り、座学のみならずサークル化につながるような、能動的講座も検討していきたい。

(質問・意見)

委員：リピーターは多いのか。初心者は年々増えているのか。

事務局：初心者の増加率についてという統計はないが、定員以上の応募があった講座は、新規か、昨年落ちて受講できなかった人を優先しているので、実際にはリピーターとして受講することは難しい。

委員：時間帯の設定について。

事務局：今年度は午前中の10時からで月・木に実施。

委員：応募者が多いのに、参加出来る人数が限られて残念である。お弟子さん等でもう一講座行うのはどうか。

委員：曜日で分けてはどうか。

事務局：実質2講座となると、場所の確保と講師への謝礼が2倍となるので、予算の兼ね合いで難しい。

委員：健康講座はどこの自治体でも人気。地域で行って欲しいというニーズがある。センターは人材育成を行い、講座は身近なところで手軽に行ける場所で行うのはどうか。幅広い教養も大事だが、家に高齢者が引きこもらず、生きがいを見つけて元気に毎回通うということも、ことぶき大学の目標なので、もう少しそういう工夫があっても良いのではないかと。

事務局：地域展開はセンター全体でも検討課題。出前講座だけではなく、人材育成と合わせて考えたい。

委員：ことぶき大学を行う場所は決まっているのか。

事務局：特に決められていない。

委員：今の事業コスト、事業運営の効率性は比較対象がないので、評価できないのではないかと。

事務局：今後の事業評価の検討課題として、事業の大枠ごとに比較検討して評価するという事も考えている。

委員：個別事業だけでなく、事業を横並びに見た比較検討が必要だ。

委員：効果指標が62%だったところで、このことについてどう思われるか。来年は別の人物を取り上げるのか。

事務局：必ずしも、効果指標にだけとられるものではない。項目にはないものの、アンケートから、講座の受講で終わらず、自宅でも読んでみたいという意見もあり、総合的には効果があったと考える。文学講座をやるのであれば、別の人物を取り上げる。

委員：コンセプトはあるか。

事務局：ことぶき大学は「楽しく学んで豊かに生きる」がコンセプトである。

委員：お金のかからないところで、「ことぶき大学」があるのだとわかる。楽しければ良いという部分があるのだろう。

委員：市民大学とことぶき大学では応募者数が違うのは有料と無料の違い、時間帯等の理由もあるだろう。

委員：ことぶき大学にはプログラム委員はいないという事か。

事務局：事業担当会議でいくつか企画を作り、議論し決めていく。講師案がある場合もあれば、企画の後に決める場合もある。

会長：市民大学とことぶき大学の違いはまた次回以降のことぶき大学の説明の中で取り上げる予定である。

・プラネタリウムがやってくる！（資料3）

事務局：前年は先着順だったが、2週間の申込み期間を設けて抽選にした。第1部は抽選、第2～3部は定員内。事前意見で頂いた「子どもだけの参加」という案については、アンケート結果によると「親子で参加できて良かった」という意見もあるので、やり方を検討しつつより多くの子どもが参加出来るよう工夫したい。「ボランティアバンク活用のキッズウィークがあれば」というご意見については、子ども向けのプログラムとして、次年度以降検討課題としたい。

委員：「親子参加」とあるが、片親や施設の子どももいる。社会的に不利な立場に置かれた子ども達

へ配慮をしたプログラムをお願いしたい。

委員：親にマナーがなかったという話がある。すごく残念であり、対策・注意をお願いしたい。

・オペラの名曲でめぐる、世界一周の旅（資料4）

事務局：生涯学習センターを知ってもらう事を一義的な目的としている。

大変人気があり、開演の40分前の13時20分からキャンセル待ちの受付を案内したところ、1時間前から並ばれる方もいた。こちらの意図に反して、事業のチラシが不要だというご意見も頂いた。

委員：一度のコンサートに参加することで、「学習活動のきっかけになった」のだろうか。実際のところはわからないのではないと思われる。

・市民企画講座「18歳選挙権・主権者からシチズンシップへ」（資料5）

事務局：ターゲット（対象者・年齢等）が誰かわかりにくい、若者を集めるための広報が必要、単発講座でも良いのでは、という質問・意見を事前に頂いている。参加者のアンケート結果は効果指標80%を達成し、「1日目が大変良かったので2日目は知人を誘ってきた」というご意見も頂いた。こちらの考えたターゲット①現職の教員、②学生（高校・大学）、③一般の方に対し、結果は現職の教職は1割程度。学生が2割、6割が一般であった。通常のPRに加え、小中高大学、選挙委員会の「明るい選挙推進委員会」にチラシを配り、マスコミにも依頼し、ショッパーと東京新聞に掲載された。企画委員が全ての高校を回りPRと同時にヒアリングを行った。しかしながら、結果として定員に達せず、両日参加してもらうことも難しかった。テーマを絞る、学校の文化祭と重なり時期も悪かった、という点も含め検討課題である。

2. 報告事項

（1）センター長報告

- ・生涯学習センターまつりについて。本年度は展示・発表だけでなくワークショップ①「被災食の調理と食器工作」②「踊り&朗読劇体験」③相模女子大学によるパネルシアターを企画した。3日間全体で1077名の参加者があったが、これはチラシの配布枚数なので、実際にはもっと多かったと思われる。
- ・来年度の予定について。7階ホールの天井耐震改修工事を予定している。2011年の震災を受けて、吊天井の改修が必要。吊天井を軽いものにし、万が一落ちてでも衝撃の少ないものに改修する。来年度の予算が確定したら、8月～1月までのホールの貸出の閉鎖を予定している。

（2）町田市生涯学習審議会について、生涯学習審議会委員からの報告

- ・80年代にできた施設が多く老朽化している。財政が逼迫して社会教育施設はこれまでと同じ事業内容でできなくなる。選択と集中が必要とされており、10月の会議では生涯学習センターと自由民権資料館を、11月には図書館と文学館のヒアリングを行い分かったことは①もっと情報発信を工夫して行う必要があること、②学校教育と社会教育施設とがネットワークを緊密にし、連携していく必要があるという、従来にない課題も浮上している。

（3）東京都公民館連絡協議会の活動について、委員からの報告

- ・第7回10月26日 議題「委員部会の研修会（東京都公民館研究大会）について」。
来年1月21日の第53回研究大会では、第四課題別集会を委員部会で企画担当する。
→研究大会の参加申込者15名を確定した。
- ・第39回大都市の社会教育・研究と交流のつどい（11月12日 国立市公民館 開催）
『大都市・東京の社会教育－歴史と現在－』という画期的な本が出版された。この本を読み解くというもの。執筆者から3名コメンテーター2名、25名程が集まり研究会が開かれた。東京都の社会教育はどんどん解体に近づいているというショッキングな現実がある。委細は別添資料参照されたい。

(4) 今後の企画について

- ・①から⑤について、別添資料をご覧いただきたい。個別に質問等があれば各事業担当まで。
運営協議会委員から頂いている意見について、情報提供については、運営協議会で取り上げる。
施設見学については、機会を改めて考えたい。

(5) 事業評価の最終報告

- ・センター長の総合評価を含めた、事業評価の最終報告をお配りした。頂いたご意見は、来年度の事業評価シートの企画書にも反映される。大幅な修正等は出来ないが、ご意見・修正等あれば連絡いただきたい。

3. その他

センター長：明日（11月22日）19時から学習室にて「プログラム会議」がある。オブザーバーとして、運営協議会委員の方も是非ご参加いただきたい。